

# 有限会社 阿歴内ファーム

## ■ 地域に貢献できる企業を目指して



### 〈法人の概要〉

所在地: 千088-2271 標茶町字阿歴内1番地

代表者: 代表取締役 津野斉

構成員: 7名(構成農家7戸)

役員: 7名 常時雇用者: 2名

設立年月: 平成7年11月 資本金: 2,000万円

事業内容: 酪農

牧草 480ha、乳用経産牛 650頭、乳用育成牛 500頭、年間生乳生産量 5,860t、黒毛和牛繁殖牛 50頭、黒毛和牛肥育素牛年間出荷頭数 40頭 (H21年)

経営面積: 480ha(H22年)

売上高: 4億7,143千万円(H21年)

電話: 015-487-8971 FAX: 015-487-8970

URL: <http://palo.dip.jp/arekinai/>

E-mail: [a\\_farm@sip.or.jp](mailto:a_farm@sip.or.jp)

### 〈法人のあゆみ〉

平成7年	有限会社阿歴内ファームを設立(構成員3戸で共同経営)。飼養頭数約120頭でスタート
8年	牛舎等を整備し、新施設に移動
10年	1戸加入し、構成農家4戸となる
12年	乳検組合加入
13年	哺乳ロボットを導入
14年	1戸加入し、構成農家5戸となる
16年	子会社の有限会社阿歴内F&Sを設立
18年	町の委託を受けてスクールバス運行に参入、第2牛舎が完成
19年	2戸加入し、構成農家7戸となる

### 〈設立の経緯・設立後の状況〉

- ・設立の動機は、①現状の個人経営力ではこれ以上の規模拡大は困難、②施設整備に再投資の時期だったが完済時の年齢を考えると資金借入に限界、③後継者の問題、④愛着のある土地を守ることなどの課題に対応するため、地域の複数の酪農家が集まり法人化を検討。
- ・地元の農協、農業改良普及センター、北海道農業会議などに法人の設立手続きなどについて相談。
- ・平成7年11月に3戸で有限会社阿歴内ファームを設立し、共同経営をスタート。標茶町で最初の協業法人。その後、平成10年、14年、19年に次々と周りの農家が加入し、現在の構成戸数は7戸となった。
- ・経営方針は、合理化によるゆとりある労働と生活、地域と連携し共生できる法人を目指した。
- ・設立当初の規模は小さかったが、300頭規模の経営を目標とした。新規の設備投資額はフリーストール牛舎(当初180頭)、ミルクパーラーなど合わせて3億2千万円。その後、第1牛舎は600頭まで増築、平成18年には600頭規模のロータリーパーラーの第2牛舎が完成。
- ・設立時の新規の設備投資に当たっては、補助事業を活用した他に、町からスーパーL資金の利子助成や町おこしとして100万円程度の助成金などの支援はあったが、資金的には非常に厳しく、5年くらいは苦労した。
- ・責任者の分担制やミーティングの徹底、作業のマニュアル化をはじめ、作業技術を共同で向上させ、乳牛管理を徹底した結果、個人経営時に出荷していた乳量の2倍となった。現在では、標茶町農協管内の中でトップの生乳生産量を誇る。このほか、大型農業機械を整理集約した結果、経費が大幅に削減された。
- ・法人化後は、個人経営時には休みを取ることも難しかったが、繁忙期以外は4週6休の休日が取れるようになった。また、規模拡大による雇用の創出、研修生の受入など、地域における雇用の場の提供に貢献している。

### 〈法人経営で生じた課題と対応策〉

- ・当初、農業生産法人では社会保険の加入が出来なかったために、子会社の(有)阿歴内F&Sを設立し、従業員は子会社の社員とすることで、社会保険に加入して対処した。(現在は、阿歴内ファームで加入)
- ・経営地が分散しているため、作業効率が悪い。現状では解決が困難な状況。
- ・書類作成などの事務処理が慣れていなかったのが苦労した。当初は、農協、農業改良普及センターの指導を受けながら対応した。
- ・阿歴内地区には公営などの住宅がないため、隣町から通う従業員が多い。町に相談しているが、現状では良い対応策がない。

### 〈法人経営のメリット・デメリット〉

- ・繁忙期を除き、4週6休の休日が確保された。
- ・地域に雇用の場を提供することが出来た。
- ・作業の共同化、効率化により乳量がアップ。
- ・社会保険への加入など、従業員に対する福利厚生の実が図られた。
- ・身近に志を同じくする仲間がいることで連帯感が高まった。

### 〈法人が継続するためのポイント〉

- ・従業員を確保するためには、福利厚生の実が重要。
- ・組織運営上、人が多くなると責任がおろそかになりがちになるので、責任者の分担制を取っている。また、ミーティングの徹底を実行している。
- ・従業員や研修生がスムーズに仕事をするために、作業のマニュアル化が必要。

### 〈これから法人化を目指す農業者へのメッセージ〉

- ・地域を大切にし、地域に根ざした法人になること。
- ・いろいろな問題が起こったときに対応するため、あらかじめ社則は作っておくこと。

### 〈特徴的な活動や取り組み〉

#### 【子会社 (有)阿歴内F&S】

- ・従業員の福利厚生の実(社会保険への加入)と、事業が増加するコントラ部門の独立のため設立。
- ・平成18年から町のスクールバス運行事業を受託している。従業員の2人を専従者としている。

#### 【北海道指導農業士】

- ・平成17年に、前代表が北海道指導農業士に認定。
- ・研修生の受入・指導、地域農業の振興等に対する助言・協力に関する活動に取り組んでいる。

### 〈経営目標と将来の展望〉

- ・地域に貢献できる企業を目指していく。
- ・頭数が多くなった育成牛の管理のため、第3農場を作り、育成部門を分離。育成部門は別会社として、委託するシステムを検討している。
- ・将来的には、6次産業化の取り組みについても検討していきたい。

### 〈視察等の受入〉

農業者、法人の受入は可能。詳細については要相談。  
連絡先: 015-487-8971 (担当: 代表取締役 津野齊)